

子どもたちの未来のために。 今すぐにできることは たくさんある!

誰もが気軽に社会貢献活動に参加できるチャリティキャンペーン、「SayLOVE since2008」が昨年、12月1日から始まった。二度目となる今回は、参加・協力企業が38社となり、それぞれの店舗などでチャリティ商品の販売や募金活動などを展開中だ。キャンペーンにより集まった寄付金は、子どもを支援するNPO4団体からなる「子どもの笑顔100万個プロジェクト」に届けられる。子どもたちの未来のために、私たちにできることは何だろうか。プロジェクトを進めるNPOの二人に聞いた。

大西 健丞(特定非営利活動法人ピースウィンズジャパン 代表理事) 駒崎 弘樹(特定非営利活動法人フローレンス 代表理事)

子ども支援に
NPOと企業が結束

「SayLOVE since2008」は、社会貢献のきっかけや機会を増やすことを目指し、多くの企業が参加して毎年行われるチャリティキャンペーンだ。毎回、そのとき一番問題と感じられるテーマに対する活動を支援する「SayLOVE since2008」が今回決定したテーマは、「子どもの笑顔」。キャンペーンにより集められた寄付金は「子どもの笑顔100万個プロジェクト」に寄付される。

「子どもの笑顔100万個プロジェクト」は、国内外で支援を必要とする子どもたちを対象に活動しているNPO4団体が集まり、「子どもたちが幸せで、子どもたちが生き育てやすくて、子どもたちがやさしい社会を創りたい」との想いで立ち上げた、子ども支援プロジェクトだ。プロジェクトに参加しているのは、紛争や災害などで安定した生活や教育を受けられない子どもたちを支援する「ピースウィンズ・ジャパン」、病時保育を取り組み、仕事と子育ての両立が当たり前の社会をつくる「フローレンス」、子どもたちの悩みを電話で受けとめるチャイルドライン支援センター、高校生を「ナメ」の関係でサポートし、人生を考える機会を提供する「NPOカタリバ」、子どもも支援という共通点を持ちながらも、活動内容はさまざまな4団体。発起人は、「ピースウィンズ・ジャパン」の大西氏だという。



ピースウィンズジャパン代表理事 大西健丞氏

大西「活動を続けていて、自分のやり方とこだわらざるあまり、周りが見えなくなることがあるんです。いま、より大きな視野で子どもに関する問題を捉えなおす必要がある」と思い、声を上げました。それぞれの分野で経験ある団体が一緒にアクションを起こすことで、社会へのアピールになるの思いもありました」

駒崎「実際に始めてみると、とても多くの企業がプロジェクトに賛同し、キャンペーンに協力してくれることに驚きました。寄付付き商品の発売や募金箱の設置など、自然体で社会貢献活動に取り組み企業が増えていると感じられました。しかし、こうしてNPOと企業の距離が近づくと、子どもと生まれる相乗効果が、未来がどうと信じています。よりよい社会にするための「寄付」の認知や方法作りを、今後も進めていきたいと思います」

社会のゆがみ 犠牲者はいつも子ども

日本では、毎日1.4人の子どもの自殺、



フローレンス代表理事 駒崎弘樹氏

3日に1人の子どもの虐待死している。また、日本では子どもが生まれると70%の女性が仕事を辞めるのに対し、ノルウェーでは続ける女性が90%というデータがある。方、途上国では、5秒に1人の子どもの命がなくなっている。

大西「ピースウィンズ・ジャパンが支援活動を行っている地域では、ちゃんとした食事と、学校に行けない子どももたくさんいます。また、児童買春の犠牲になったり、少年兵として戦場にかり出される子どももいます。こうした紛争地域でも、また日本のような先進国でも、社会のゆがみのしわ寄せはいつも子どもたちへ行きます。腕力がなく、経験もなく、財産を持たない、立場の弱い子どもたちが犠牲になるのです」

駒崎「日本は高齢化が進み、社会を支える労働力が減っている危機状況です。なのに、子育ての環境には問題があり、多くの女性が仕事と子育てを両立できずにいる。非常にもつないでいます。たとえば、制度をかえることで簡単に改善できる問題もあります。私たちは活動を通して

て、社会を変えるための引き金を引きたいと思っています」

寄付でも、ボランティアでも
皆でアクションを!

駒崎「二人ひとりだけが危機感を感じて、「誰かが何かやるだろう」とから「自分は何をしよう」と考える方を変えることが大切だと思います。寄付でも、ボランティアでも、NPOでのインターンでも、関わる方法はいろいろあります。社会に目を向けて、皆が一步を踏み出してほしいです」

大西「まずは行動してみる感じが大切ですよ」ね「旅」の読者なら、パーチャルでなく、実際の世界へ出て行って問題の現場にまで行って、自分の足を歩くと、わかることたくさんあります。もちろん、治安上危険でない場所へ、今はまだアフリカは絶対行っちゃダメですよ」

駒崎「寄付は、自分でどうなったらいかなと考える社会を創るための、いつでもできる投票のようなもの。衆議院選挙は4年に一度しかないけれど、寄付ならいつでも意思表示ができますよ」

大西「自分で寄付するようになって実感しましたが、寄付って習慣だと思います。やる前にいろいろ想像して悩むよりも、まずは一度、わずかな額でもいいので、自分でいと思う団体や活動に、寄付してみてもはどうでしょう。寄付することで、興味をもって関わり続けることができた、ちょっと満足感を得られたり、実感できることがあるはずですよ。実際に体験してからあらためて、寄付したいと考えてみてください。もちろん、続けてくれたら私たちはハッピーです」

★キャンペーンサイトからの寄付

思い立ったその時に、寄付ができます。

<http://saylove.jp>

Say LOVE | 検索

※銀行振込み・郵便振込みをご希望の方もWEBをご覧ください。



THEME:
旅と子ども

タイトル: Just Big Smiles 応募者: 長木 重憲 様



THEME:
旅と環境

タイトル: The Trekking On Blue Planet 応募者: 高橋 慶太 様



THEME:
旅と平和

タイトル: なし インド・バラナシにある日本人手作りの学校に行った時に壁に貼ってあった字。文字を知らない子どもたちが、日本人に教えられる貴重な文字です。どういう説明を受けて「平和」を書こうと思ったのか、平和への願いが伝わってきます。 応募者: 三上 恵 様

旅で得た感動と発見の写真を大公開!!

世界とつながる、
世界を変える。



タイトル: なし 応募者: Leo 様

本誌、旅学5号で募集を致しました、「世界とつながる、世界を変える。」あなたが撮った感動と発見の写真たち。選考の結果、4点をご紹介させていただきます。また、これらの作品は、「Yahoo! ボランティア」サイト内にあるチャリティ・プラットフォーム募金ページのダウンロード用壁紙として採用されます。たくさんのご応募ありがとうございました。



あなたにも、できることがあります。

チャリティ・プラットフォーム | 検索

チャリティ・プラットフォームは世界で活躍するNPO/NGOを応援しています。